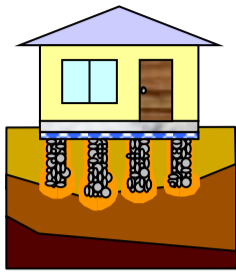


# 工法比較表

イメージ図					
工法名		表層改良工法	柱状改良工法	エコジオ工法 エコジオZERO(無排土)	鋼管杭工法
概要	材料	セメント系固化材		砕石	鋼管杭
	施工方法	セメント系固化材と土を混合		砕石を地中に詰め込む	鋼管杭を打ち込む
	最大施工深度	約 2.0m	約 9.0m	5.0m (設計基準が異なるため、他工法と比べ一般的に設計改良長は短くなる。)	約 30m
	コスト	低	低～中	低～高 (設計基準の違いにより、他工法と比べ安くなったり、高くなったりする。)	中～高
施工	施工効率 1日の施工量	80m <sup>3</sup> ～120m <sup>3</sup>	80～120m	①標準施工 60m～100m ②無排土 ～200m程度	100m～200m
	地盤改良機	—	必要	必要	必要
	バックホー	0.1～0.4m <sup>3</sup>	0.1～0.2m <sup>3</sup>	0.1～0.2m <sup>3</sup>	—
	ダンプ	残土の運搬	条件による	砕石、残土の運搬	—
	セメントプラント	—	必要	—	—
	給水施設	—	必要	—	—
	準備、片付け	—	セメントプラントのセット 水の確保	ケーシングの着脱	—
	残土処分	必要	必要 (セメントが混ざる可能性)	①標準施工 : 必要 ②無排土 : 不要	—
	仕上げの方法	ローラーで転圧	人力でコテで均す	バックホー(ランマー)	ガス設備を用いて杭頭部を切断
	天端仕上げの精度	重要	重要	—	重要
	養生期間	1週間程度 (強度確認後に基礎着工)	1週間程度 (強度確認後に基礎着工)	—	—
	事後試験	テストピース、圧縮試験	テストピース、圧縮試験	—	場合による
	近隣家屋への配慮	セメント粉塵飛散対策	セメント粉塵飛散対策	—	火気の取り扱い注意
資産価値	地価への影響	土壌汚染、撤去費用が影響する可能性 (不動産鑑定評価基準)		—	撤去費用が影響する可能性 (不動産鑑定評価基準)